頭巻特集

地域の人たちでつくり上げた映えスポット

洲原ひまわりの里

夏のひまわりや秋のコスモス、春のネモフィラなど、1年を通してさまざまな花が咲く洲原ひまわりの里。この季節は、たくさんの色鮮やかなひまわりが鑑賞できます。花畑を始めた経緯や力を入れていること、今後の目標などを聞いてきました。

洲原ひまわりの里を運営する「元気モリモリ洲原村」の村長、富田正則さん（右）と、洲原公民館の元館長である古田正和さん（左）

子どもたちが集まる場所をつくっていきたい

のどかな山間地が広がる美濃市下河和の長良川沿いに、まるでメルヘンの世界に入り込んでしまったような花畑があるのをご存知でしょうか。洲原公民館の前に広がる、地域の人たちでつくり上げた「洲原ひまわりの里」です。

「子どもたちが集まるような場所をつくりたいと思ったのが最初のきっかけです」と話すのは、花畑を運営している市民団体「元気モリモリ洲原村」で村長を務める富田正則さん。「随分前に地域の小学校が廃校してしまい、子どもたちの元気な姿があまり見られなくなったのを、地元の大人たちがさみしがっていたんです」と振り返ります。

そこで休耕地に花畑をつくって村おこしをしようと、2012年に地域の有志およそ10人で「元気モリモリ洲原村」を立ち上げました。約1200㎡の土地にひまわりを植え、SNSを使った情報発信を始めました。

その後は夏のひまわりだけでなく、季節ごとにさまざまな花を植栽。2020年には、花畑を始めとするいくつかの取り組みが評価され、洲原公民館が文部科学省の優良公民館表彰を受賞しました。

近年はSNSの発信で注目を集め、地域の人たちだけでなく、遠方から訪れる人も増加。コロナ感染が広がる前は、年間で約2万人の来場者がありました。

フォトジェニックなオブジェも多数製作

花畑の面積は年を追うごとに少しずつ拡大していき、現在は始めた当初の2倍にあたる2400㎡。毎年春はネモフィラやポピーが咲き、今年からはルピナスとフクロナデシコの植栽も始めました。

そして夏はひまわりの季節。毎年6月頃になると、市内の保育園やこども園の園児たちが、ひまわりの種まきを手伝いに訪れます。もっとも見頃の時期を迎えるのは、年によって異なりますが、7月下旬から8月上旬くらいまで。八重咲きなど多彩な品種の花が、8月だけで約1万本も咲き誇ります。

さらにひまわりは、10月下旬から11月中旬くらいにも開花して、コスモスとの共演も。冬になると、今度はきれいな寒咲花菜に覆われます。

また、花畑の目の前にある「洲原地域ふれあいセンター」の建物が、フォトジェニックなオレンジ色の三角屋根であることも大きな魅力。さらに近年は、団体メンバーの皆さんで懐かしい昔のポストやハンギングチェアを設置したり、レトロな駅看板や電車をハンドメイドしたりするなど、撮影スポットとして選んでもらえるようなオブジェづくりにも力を入れています。

「今は皆さんが写真を撮ってSNSなどにアップする時代ですからね」と話すのは、洲原公民館の元館長である古田正和さん。昨年からは、季節ごとに1回だけ電子ピアノを置き、自由に演奏してもらうストリートピアノの企画も始めたばかり。「せっかく足を運んでもらえるのですから、花をご覧になっていただくだけではなく、いろいろな楽しみ方をご提供していきたい」とほほ笑みます。

ひまわりの満開時期に「魔女コンテスト」を開催

今年のひまわりは8月上旬に満開を迎える予定。その時期に合わせて、毎年恒例の「魔女コンテスト」も実施されます。

これは2013年から続いている大人気企画。子どもたちなどが魔女の衣装に身を包み、ほうきにまたがって、撮影台の上からジャンプしたところを撮影します。すると、まるでひまわりの上を飛んでいるような写真に。インターネットの応募フォームから写真を送ることで、コンテストに参加できます。なお、魔女の衣装はレンタルも可能（コロナ感染が拡大している期間は休止）。近年は毎年およそ100件の応募があり、入賞者は洲原地域ふれあいセンターのFacebookページで発表されます。

今後の課題は、団体メンバーの高齢化が進む中で、いかに花畑を継続していくか。「地域内外のたくさんの方に来ていただけることが全員のモチベーションになっており、楽しみながら運営することができているものの、メンバーの大半は60代以上。もっと若い方たちにも参加していただけるとうれしいです」と富田さん。古田さんも「新しいメンバーが入ってくれれば、それだけ新しい工夫も生まれてくるはず。みんなでいろんなアイデアを考えながら、今後も地域一丸となって、きれいな花畑や面白いオブジェなどをつくり上げていきたい」と声をそろえます。

「洲原ひまわりの里」のひまわりは、まさに今が見頃の時期。ぜひ皆さんも足を運び、地域の人たちが一生懸命につくってくれた花畑で気持ちのいい時間を楽しんでみてください。

毎年、ひまわりの種まきに訪れる保育園やこども園の園児たち。花畑の運営を通して、地域との交流も進んでいます

上）団体メンバーの皆さんで手づくりしたという駅看板と電車。ここで写真を撮るのもおすすめです　右）額縁を通せば、本物の絵画のように見える映えスポット　左）運営のための協力金を支払った人には、国鉄時代の切符を再現した「幸せきっぷ」を配布

心おどる「ひまわり畑」の思い出♪

読者の皆さんに、洲原ひまわりの里で撮影したとっておきの写真を投稿いただきました!

洲原地域ふれあいセンターの三角屋根を背景に咲き誇る夏のひまわり。黄色だけでなく、赤やオレンジなど色とりどりの花が咲きます。夏は「ひまわり迷路」も人気です。また、ネモフィラやルピナス、コスモス、寒咲花菜など季節ごとに色とりどりの花が咲きます。

information

洲原ひまわりの里

場所：美濃市下河和468-3

開場時間：24時間開放

☎0575-32-2105

（洲原地域ふれあいセンター）

洲原ひまわりの里に関する詳細情報はこちらをご確認ください

文／藤原均　写真提供／洲原ひまわりの里・きららくらぶ読者の皆さん・編集室　デザイン／chica